

2010 年 12 月 8 日

ソニーPCL 単眼スプリッター方式 3D 撮影システムを開発
～ 機動力を大幅に向上させた小型 Rig も開発 ～

ソニーピーシーエル株式会社(以下、ソニーPCL)は、今後さらに拡大が予想される 3D コンテンツ制作におけるより効率的な望遠撮影を可能にする「単眼スプリッター方式 3D 撮影システム」、および機動性を大幅に向上させた「ビームスプリッター方式ハンディ Rig」を開発し、運用を開始しました。



写真左：単眼スプリッター方式 3D 撮影システム (86 倍ズームレンズを装着した状態)

写真右：ビームスプリッター方式ハンディ Rig (ハンディ利用した状態)

■単眼スプリッター方式 3D 撮影システム

「単眼スプリッター方式 3D 撮影システム」は、二眼式 3D 撮影システムでありながら、1 つのレンズで 3D 撮影を行うことが可能な特殊なシステムです。これまでの一般的な二眼式 3D 撮影システムでは、右目用左目用カメラに対してそれぞれにレンズが装着されているのに対し、「単眼スプリッター方式 3D 撮影システム」では 2 台のカメラが 1 つのレンズを共有しています。設営時のレンズ光軸セッティングが不要であり、ズーミングによる光軸ズレが発生しないため、特に超望遠レンズを必要とするスポーツ撮影や風景撮影などで効果を発揮します。また、撮影中の視差調整もほとんど不要なため、ステレオグラファの負荷を軽減するなど、より効率的な制作オペレーションが可能になります。

なお、当「単眼スプリッター方式 3D 撮影システム」は、12 月 22 日から銀座 ソニービルで開催される「3D 旭山動物園」で上映される 3D 映像でも活用されており、動物の望遠撮影などで効果を発揮しています。



「3D 旭山動物園」撮影風景

■ ビームスプリッター方式ハンディ Rig

「ビームスプリッター方式ハンディ Rig」は、使用カメラを小型カメラ（PMW-10MD）専用設計にすることで、機材重量を大幅に小型・軽量化した 3D-Rig です。撮影シーンに合わせた目幅調整など、ビームスプリッター方式ならではの特長を保ちながら、通常の固定撮影はもちろんのこと肩に乗せてのハンディ利用も可能で、移動撮影などで効果を発揮します。



固定撮影時のビームスプリッター方式ハンディ Rig

	主な仕様			
単眼スプリッター方式 3D 撮影システム	重さ 30Kg	長さ 450	高さ 345	幅 380mm (最大部) ※1
ビームスプリッター方式ハンディ Rig	重さ 10Kg	長さ 530	高さ 450	幅 280mm (最大部) ※2

※1 カメラ・レンズを含まない。 ※2 カメラ・レンズを含む。

これにより、当社が保有していた光学アダプター搭載のサイドバイサイド方式カメラシステム×1 式、P+S Technik 社製ビームスプリッター方式 Rig×1 式、当社独自開発のビームスプリッター方式 Rig×8 式の計 10 式、小型 Rig×2 式に加え、単眼スプリッター方式撮影システム×1 式、ビームスプリッター方式ハンディ Rig×1 式の計 14 式がラインナップされ、様々なシーンに、より柔軟な対応が可能となりました。

当社は、3D コンテンツの企画・制作から撮影、編集／カラーグレーディング、立体音響制作、DCP 制作、BD オーサリングまで、3D コンテンツの一貫制作体制と豊富な経験と高い技術力で、3D 映像制作を積極的にサポートしてまいりますと共に、より快適な 3D 映像制作環境をご提案できるよう尽力してまいります。

※ 記載されているシステム名等は、一般に各社の登録商標あるいは商標です。

～ 本件に関するお客様からのお問い合わせ窓口 ～

ソニーPCL 株式会社 デジタルプロダクション事業部 ビジュアルソリューション部
電話：03-3492-9683